

令和4年度の主な取組実績

I 販売力強化 ～消費動向の変化を見据えた販売戦略の展開～

1 ブランド力の強化

県産品の競争力を高めるため、引き続き「青天の霹靂」の新たな顧客層の開拓や「ジュノハート」のブランド力を強化するとともに、マーケティング専門家との連携などにより「ジュノハート」に続く新たな商品の発掘・開発や、「はれわたり」のデビュー対策などに取り組みます。

① あおもり米「青天の霹靂」ブランド定着促進事業【継続】

新たな顧客層の開拓等によるブランド力の更なる向上と定着に向けて、「青天の霹靂」らしい驚きのある取組をWebや店頭で展開

ア Webを中心とした驚きのあるコンテンツの制作と情報発信

弘前市出身の人気お笑いコンビ「シソンヌ」のじろうさんによる「お米を買って帰ろう」をテーマにした動画の制作・公開や、SNS等を活用した動画広告を発信（動画再生回数（令和4年10月8日～12月9日）：約90万回）



【「インタビュー」猪俣ヒロシ篇】



【「独白」野呂道子篇】



【「再会」工藤訓一篇】

イ 企業との連携によるブランドイメージの向上

雑誌「POPEYE」が運営するウェブサイト「POPEYE Web」とコラボし、「お米を買って帰ろう」をテーマとした特集記事をウェブサイトやSNSで発信するとともに、「青天の霹靂」オリジナル商品（米袋）を景品としてプレゼントするキャンペーンを展開（応募数2,305件）



ウ 潜在的顧客の購買意欲を高める店頭プロモーション

- ・近畿圏・中京圏の小売店等を対象としたディスプレイコンテストを実施
- ・試食宣伝に代えて、県内外の量販店で個別に包装した「青天の霹靂」の一口おにぎりを試供品として配布



【イオン青森店での試供品配布(10/8)】



【中京圏の量販店でのディスプレイコンテスト】

② 「ジュノハート」ブランド化促進事業【継続】

「ジュノハート」のブランド力の強化に向け、ブランド化全体戦略に基づいた高品質大玉生産の徹底や流通・市場・小売店等に対する販売促進活動、消費者の認知度向上に向けたプロモーションを実施

ア 高品質大玉生産の推進

- ・高品質大玉生産に向け、3月には凍霜害・結実確保対策について、5月には摘果・着色管理について、6月には「専用カラーチャート」を活用した適期収穫方法及び県内統一の出荷基準の遵守を周知
- ・りんご研究所の試験研究成果等を基に、若木期における好適樹相の診断方法を栽培マニュアルに追加
- ・開花期の天候不順による結実不良、収穫前の日照不足による着色不良等の課題に対する技術開発に向け、りんご研究所が試験を実施

イ 販売促進・PR活動

- ・例年より1週間ほど早い令和4年6月25日から約3週間、東京・大阪の百貨店や飲食店、高級食材などを扱うEC等において販売
- ・県内では、百貨店における店頭販売、ギフトカタログによる販売を実施



【伊勢丹新宿店でのジュノハート販売】



【ジュノハートのデザート(Blue Note TOKYO)】

- ・ 観光さくらんぼ園や観光施設における有利販売モデルの検証
- ・ 首都圏テレビや全国雑誌などのメディアやSNS、Web等で情報を発信
- ・ 県内の洋菓子店等における「ジュノハート」を使用したスイーツの創作・販売



【ジュノハートを使用したスイーツ】

- ・ ジュエリーブランドとの連携によるPR及び香港のスイーツ店等における「ジュノハート」の数量限定販売



【ジュエリーブランドと連携したPR】



【香港スイーツ店】

③ ブランド産品価値向上推進事業【新規】

産地とマーケティング専門家との連携により、「ジュノハート」に続く新たな産品を開発・発掘するとともに、ブランド化を目指す産品について、専門家による生産・販売に係る収支状況や販売・PRに係るアドバイスを実施

ア 新たな産品の発掘・開発

県内産品のリサーチを実施し、深浦白神自然薯など3つの新たな候補産品を発掘

イ ブランド候補産品の収支状況や課題に対するアドバイス

青森きくらげ、ジュノハートの生産者に対し、生産・販売に係る収支状況等を聞き取りし、販売・PRに係るアドバイスを実施

ウ ブランド候補産品へのアドバイス

あおもりカシス、青い森紅サーモンなど5つのブランド候補産品に対して、マーケティング専門家によるブランド化に向けた販売・PRに係るアドバイスを実施

④ あおもり米新品種「はれわたari」スタートダッシュ事業【継続】

「はれわたari」の令和5年産での全国デビューに向けて、品種特性を発揮できる生産指導体制の整備に取り組んだほか、キービジュアルデザインを制作するとともに、県内での機運醸成を図るため、県内限定で先行販売と販売促進活動を実施

ア 指導力の向上

- ・栽培技術の周知と栽培意欲の醸成を図るため、県内20か所に指導拠点ほを設置し、生育状況、収量・品質の成績を確認しながら良食味・高品質米安定生産に向けた指導力向上を図る研修会を開催（3回）
- ・関係地域県民局に、関係団体等を構成員とした生産指導プロジェクトチームを設置（5県民局）
- ・農林総合研究所ほ場において、直播栽培及び高密度は種苗栽培技術確立に向けた試験を実施



【指導者研修会（8/30）】

イ キービジュアルデザインの制作・発表

青森県産米需要拡大推進本部と連携し、プロポーザルによりキービジュアルデザイン制作事業者を選定し、制作したデザインを令和4年9月26日に発表



【キービジュアルデザイン3種】



【デザイン発表(9/26)】

ウ 県内先行販売と販売促進活動の展開

令和5年産での全国デビューに向けて、県内での機運醸成を図るため、県内先行販売（令和4年10月29日に販売開始、2キログラム入り約13万1千袋）を行うとともに、発売に向けた情報発信や店頭での知事トップセールス、プレゼントキャンペーンなど販売促進活動を展開



【販売告知ビジュアル】



【先行販売日知事トップセールス(10/29)】

2 販路の開拓

コロナ禍などにより多様化する消費行動を踏まえ、成長分野であるEC市場や地域密着型スーパーなど新たな販売先を開拓するとともに、DX等による非対面での販路開拓やライブコマースなどデジタル技術を活用した商談手法の導入、県産米の最大の輸出先である香港を始めとしたアジア、欧米などの販路拡大に向けたプロモーションを展開します。

① 首都圏・西日本における戦略的販路開拓推進事業【新規】

首都圏及び西日本エリアの高級店や飲食店等を対象に、マーケットに精通した専門家のアドバイスを基にした提案型セールスを展開するとともに、コロナ禍の影響を受けにくい内勤型セールス活動の検証及び県内EC企業の県産品販売状況調査等を実施

ア 首都圏における販路開拓

- ・東京事務所（観光企画課東京都駐在）との連携による百貨店、飲食店等へのセールス活動
- ・産地招請、サンプル提供、フェアの開催
- ・新たな品目の取扱いを開始した店舗数 19店舗（令和4年10月末現在）



【資生堂パーラー本県食材フェア】



【東信水産「青森フェア」まぐろ解体ショー】

イ 西日本における販路開拓

- ・港湾空港課（大阪分室）との連携による、高速保冷輸送「A!Premium」等を活用した商品のセールス活動
- ・産地招請、サンプル提供、フェアの開催
- ・新たな品目の取扱いを開始した店舗数 48店舗（令和4年10月末現在）



【神戸ポートピアホテル本県食材フェア】



【大丸神戸店「青森県フェア」店内PR】

ウ 内勤型セールス活動の検証及び県内E C企業の県産品販売状況調査

- ・「非対面型」セールスのための映像コンテンツ作成、データ管理手法の構築等による内勤型セールスの検証
- ・県内E C企業の県産品販売状況や課題等の把握により、県内E C販売を通じた販売促進の可能性を検討

② アフターコロナに対応したあおもり産品販路拡大事業【新規】

アフターコロナを見据え、消費者の購入行動の変容をビジネスチャンスにつなげるため、身近な地域スーパーや食品卸業者など新たな販売先の開拓や、E C分野における販売促進活動の強化、非対面方式での商談の推進等を実施

ア 多様化するニーズに応じた販路開拓による「青森ファン」の獲得

- ・地域密着型スーパーや食品卸業者をターゲットとした新たな販路開拓活動と、これまで築いてきた量販店等とのネットワークを生かした「青森県フェア」を開催（15回、919店舗）
- ・「青森県フェア」開催店舗や企業トップに対する知事トップセールスを実施（県外延べ25か所（令和4年12月末現在））
- ・「青森県フェア」と連動したネット販売などE C展開を強化（3件）
- ・量販店バイヤーへの商品提案や産地訪問（延べ9回）、商談会（延べ9回、計158事業者）の実施

イ デジタル技術を活用した新たな商談手法の導入・推進

- ・食品事業者を対象としてオンライン商談に向けた研修会を実施（初級コース2回、実践コース1回、延べ31事業者）
- ・県内関係機関・団体と一体的となったオンライン商談会の開催（参加者：44事業者、県外バイヤー11社）

③ 香港輸出拡大ネクストステージ展開事業【新規】

県産米の輸出拡大に向け、国内米卸売業者と連携し、香港のスーパーマーケットチェーンの店舗において「まっしぐら」の小売販売を本格的に開始するとともに、メディアを活用して情報発信を行った。

ア 店頭での県産米PR

- ・時期：令和4年7月～令和5年2月
- ・内容：
販売店舗数 37店舗
販売員による推奨販売 延べ74日
サンプル米、PRリーフレットの配布

イ メディアを活用した情報発信

- ・YouTubeでの動画広告配信（10月～11月、89.4万リーチ）
- ・Facebookでの情報発信（8月～2月、10回）
- ・メディア向けプレスリリース（10月、1回）



④ 青森産品輸出拡大強化事業【継続】

県産品の輸出額拡大に向け、ＥＵや米国において試食や宣伝員によるプロモーション等を実施し、新規市場の可能性を探ったほか、既存取引先のバイヤーを産地に招請し県産品の利用促進と連携の強化を図った。

ア 「新規市場の開拓」に向けたプロモーション（ＥＵ、米国、豪州）

- ・ 試食アンケートによる輸出可能性調査（ＥＵ）

場所 フランス・リヨン（シラ国際外食産業見本市）

日時 令和５年１月

商品 卵付きホタテ（冷凍）

- ・ 県産品フェアの開催（米国、連携先：カメイ（株））

場所 サンノゼ、トーランス、ニュージャージー

日時 令和５年２月

商品 ながいも、県産加工品等（２７社、１７６アイテム）

- ・ ＥＣサイトでの県産品フェア開催（豪州、主催：ＪＦＣオーストラリア）
（調整中）

イ 既存取引先等との連携強化（香港）

- ・ 産地招請による A!Premium 食材等のＰＲ（連携先：マキシムグループ）

招請者 マキシムグループバイヤー

招請日 令和４年７月（１名）、令和５年３月（６名）

提案食材 八戸（ホッキ）、三沢（イカ）、大間（マグロ）ほか

- ・ レストランプロモーション展開（連携先：マキシムグループ）
高級回転寿司で「東北フェア」実施（１１月～１２月）

３ 地産地消の推進と食産業の強化

信頼構築の基礎となる地産地消を推進するため、地産地消の核となる産直施設の商品供給機能の強化を図ります。

また、コロナ禍により変化した消費者ニーズに対応するため、県産農林水産物を活用した冷凍食品の開発・販売に対する支援等を強化します。

① 産地直売施設販売力強化事業【新規】

若手生産者等が産地直売施設へ出荷しやすくなる体制や、新たな出荷者の増加につながる取組について検討するほか、ＰＯＳレジデータの分析結果を活用した出荷・販売を推進し、研修会で取組を紹介することで、産地直売施設の販売力を強化

ア 若手生産者等が出荷しやすくなる体制の検討・実証

- ・ 産地直売施設に新たに出荷を開始する若手生産者を掘り起し（３施設）
- ・ 新規会員の商品をＰＲする売場づくりを支援（１施設）
- ・ 新規会員獲得のための販路拡大を支援（１施設）



【アドバイザーによる若手生産者との産直出荷に関する意見交換】

イ POSレジデータの分析結果を活用した出荷・販売の推進

- ・ POSレジデータの活用についてアドバイスを実施（6施設）
- ・ 研修会による取組の普及（1回）



【POSレジデータの分析】



【販売力強化研修会】

② 産地で作る冷凍食品産業振興事業【継続】

市場規模が拡大している冷凍食品分野の振興に向けて、産地と加工事業者の連携による加工体制の構築や、品目や用途に応じた冷凍技術の開発等を推進

ア 産地フレッシュ生産体制の構築と求評活動

- ・ 産地と県内加工事業者とのマッチングにより、採れたての野菜等を産地で冷凍する 高品質な凍菜等の開発を支援
- ・ 冷凍食品に精通した コンサルタントを活用した首都圏事業者への求評活動を実施
- ・ 昨年度開発した凍菜（ブロッコリー、アスパラガス、かぼちゃ）について、3大都市圏で実施した「青森県フェア」で試験販売を実施

【令和4年度に開発された冷凍試作品】

品 目	産 地	加工事業者
だいこん	十和田市	(株)グリーンソウル（十和田市）
ほうれんそう	東通村	（一社）東通村産業振興公社（東通村）
青森きくらげ	八戸市	フードアドバンス(株)（八戸市）



【青森きくらげの冷凍試作品】



【「青森県フェア」での販売】

イ 冷凍食品の技術開発等

- ・（地独）青森県産業技術センターにおいて、だいこん、ほうれんそうなど品目ごとの前処理や冷凍技術の確立に向けた試験を実施

ウ セミナーの開催と急速凍結関連機器等のリース導入支援

- ・ 県内加工事業者等を対象とした冷凍食品の基礎知識や業界動向などをテーマとしたセミナーを開催（2回）
- ・ 加工事業者等に対し、県産農林水産物を県内で冷凍加工する冷凍食品開発に取り組むために必要な機械設備の導入を支援（6件）



【セミナーの様子】

③ ニーズ対応型フローズンフーズ創出事業【継続】

県産農林水産物を活用した冷凍食品の開発により企業の成長を促進するため、県内加工事業者に対して緊急的かつ濃密な支援を実施

ア 実需者ニーズに応えた冷凍食品の企画と開発の促進

- ・ 県内加工事業者に対して、県産品を活用し、実需者ニーズに対応した冷凍食品開発を支援（50 商品）
- ・ 冷凍食品に関する有識者による県内加工事業者へのアドバイスを実施し、商品開発を促進

イ 開発した冷凍食品の求評活動とブラッシュアップへの支援

- ・ 県内加工事業者が開発した試作品について、首都圏販売関係者へのサンプル送付や展示商談会での求評を行い、その結果に基づくブラッシュアップを支援
- ・ 開発した商品について、3大都市圏で実施した「青森県フェア」で試験販売を実施



【実需者からのニーズ収集】



【「青森県フェア」での販売】

Ⅱ 生産力向上 ～労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産～

1 労働力不足の克服

(1) 労働力の確保

若者等を中心とした多様な労働力の確保に向けて、引き続き補助労働力の掘り起こしを行うとともに、冬期間の求人情報の把握によるマッチングや他産業とも連携した地域ぐるみのマルチワークモデルづくりなどを推進します。

① 農村地域のマルチワークモデル創出事業【新規】

農業労働力の確保のため、補助労働力の掘り起こしを継続するほか、若者を中心とした「常雇い」や外国人材の安定確保を支援

ア 多様な労働力の確保

- ・企業を対象とした農作業体験会を5回開催し、延べ25名が参加

【企業を対象とした農作業体験会】

第1回：10月22日（土）09:00～12:00、参加者5名、十和田市、ねぎ

第2回：11月12日（土）08:50～12:00、参加者2名、弘前市、りんご

第3回：11月12日（土）12:50～16:00、参加者2名、弘前市、りんご

第4回：11月13日（日）08:50～12:00、参加者6名、青森市、りんご

第5回：11月13日（日）12:50～15:00、参加者10名、青森市、りんご



【十和田市：ねぎ調製作業体験】



【弘前市：りんご収穫作業体験】

- ・公益社団法人あおもり農業支援センターに「農業労働力ワンストップ相談窓口」を設置し、農業はもとより、選果施設や加工場などの農業関連施設等における冬期間の求人情報を把握して、通年でマッチングを推進

相談：329件、求人数：217人、マッチング：30人（令和5年1月16日時点）

イ 若者の農業就労モデルの創出

- ・「特定地域づくり事業協同組合制度」の活用を促すための勉強会を開催

【つがる市勉強会】

第1回：12月15日（木）13:30～16:00、参加者18名

第2回：2月14日（火）13:30～16:00、農業者等参加予定

ウ 外国人材の安定確保

- ・ 外国人材を活用中の農業者を対象とした「雇用安定セミナー」と、新たに外国人材の受入れを希望する農業者を対象とした「個別相談会」を各2回開催

【雇用安定セミナー及び新規受入相談会】

期日：令和5年1月23日（月）（弘前市）

令和5年1月24日（火）（十和田市）

会場：弘前市立観光館、NOSA I 青森南部支所

参加者数：セミナー100名、相談会6組 ※ともに2会場の合計

セミナー：①外国人労働者の全体像及び農業分野における外国人材の把握

②農業分野における各種受入制度及び在留資格について

③農業分野における外国人材の具体的な受入方法

④外国人職場定着のためのポイント

⑤県内事例紹介

個別相談：特定技能登録支援機関、技能実習監理団体、その他外国人材用の専門家などが、農業分野における外国人材新規受入の相談に対応

(2) 省力・低コスト化

省力・低コスト化を図る農地の大区画化や担い手への農地の集積・集約化を加速させるとともに、生産者の経営規模に応じたスマート農業等の先端技術の導入などに取り組みます。

① ほ場整備など基盤整備の推進【継続】

- ・ 農地の区画整理や暗きょ排水、排水路等の基盤を整備（ほ場整備事業18地区、農地中間管理機構関連農地整備事業7地区、農地耕作条件改善事業10地区）
- ・ 基盤整備を実施した3地区において、スマート農業の導入を促進するため RTK-GNSS 基地局を整備
- ・ ほ場整備を契機として、新たに495.2ヘクタールを担い手に集積



【区画整理工事の状況（青森市三本木・滝沢地区）】



【RTK-GNSS 基地局（五所川原市 五所川原スマート地区）】

② 担い手の農地集積・集約加速化事業【新規】

農地中間管理機構が地図情報システムを活用しながら、市町村等とともに担い手への農地の集積・集約化を推進

ア モデル地区における集積・集約化の推進

- ・モデル地区の選定 3地区（平川市、五所川原市、七戸町）
- ・地図情報システムを活用した農地の見える化
- ・農地集約化地域推進会議による集約化案の検討

イ 担い手同士の農地交換の推進

- ・西北地域の大規模稲作農家を対象とし、農地交換による集約化推進に向け、耕作現況地図を作成



【農地の見える化（年代別）】



【農地集約化地域推進会議】

③ 「スマート農業」技術実装加速化推進事業【継続】

農業の労働力不足を克服するため、民間企業等と連携し、本県に適した技術の開発を促進するとともに、生産者が経営規模に応じてスマート農業に取り組めるよう青森型スマート農業技術・機械の開発・実証やスマート農業の普及拡大に向けた人材育成を実施

ア 青森型スマート農業技術・機械の開発・実証

野菜・果樹部門の生産現場のニーズを踏まえ、本県の気象条件や作型などに適した技術・機械の開発とその実証

- ・本県独自の低コストで簡易な自動かん水・施肥システムを開発するため、大玉トマトの篤農家3戸に委託し、各種データ（かん水量、施肥量、土壌P F、日射量等）を収集・分析
- ・りんごの省力・軽労化作業体系を確立するため、トヨタ自動車株式会社に委託し、りんごの農業法人に対して、経営管理ソフト「アグリノート」を活用しながら、「トヨタ式現場カイゼン手法」を導入し、生産性が向上



【大玉トマトの生育調査】



【りんごの現場カイゼン指導】

イ スマート農業の導入促進に向けた取組の強化

- ・水田の水管理システムによる省力効果及びアシストスーツによる農作業の軽労化など経営規模別のスマート農業技術・機械の実証（県内8か所）、普及・啓発セミナーの実施



【水田水位センサーによる計測】



【アシストスーツによる軽労化作業】

ウ スマート農業の普及拡大に向けた人財育成

- ・指導者向けの人財育成講座（2回、参加人数44名）や県内の大学生等を対象とした後継者育成研修会（3回、参加人数103名）を開催

④ 農林水産関連原油・原材料価格高騰等対策事業

【R4.6補正750,000千円、R4.9追加補正1,750,000千円 計2,500,000千円】

原油・原材料価格の高騰に対応し、経営の継続・発展及び輸入代替作物等の安定供給を図るため、農林水産事業者等が導入する機械や設備等に要する経費を補助

1,070件の申請があり、773件採択

ア 原油・原材料価格高騰緊急対策

- ・農作物の省エネルギー、省力・低コスト技術導入タイプ
- ・経営規模拡大タイプ
- ・果樹の作業効率向上タイプ
- ・地域資源活用促進タイプ

イ 輸入代替作物等の安定供給対策（国産食料供給体制強化対策）

- ・稲わら有効利用促進タイプ
- ・県産野菜等供給力強化タイプ
- ・食品加工強化・支援タイプ
- ・県産飼料作物安定供給タイプ
- ・県産木材安定供給タイプ
- ・魚介類の省エネ生産等支援タイプ

2 安全・安心・高品質生産

(1) 水田農業

デジタル技術の活用により、「青天の霹靂」や「まっしぐら」等の良食味・安定生産を図るとともに、県産米新品種「はれわたり」の令和5年産デビューに向けた体制を整えます。

さらに、米価下落に対応した水田農業の再構築を進めるため、JA等地域が主体に取り組む水稻の省力・低コスト技術の導入や野菜等高収益作物への作付転換への支援などを強化します。

① デジタル技術活用によるあおもり米競争力強化事業【新規】

良食味・高品質米の安定生産に磨きをかけ、激化する産地間競争を勝ち抜くため、デジタルデータを駆使した指導を強化するとともに、最新技術や飼料用米などを取り入れた収益性の高い稲作経営を実践できる人財を育成

ア 「青天の霹靂」の良食味・安定生産指導の強化

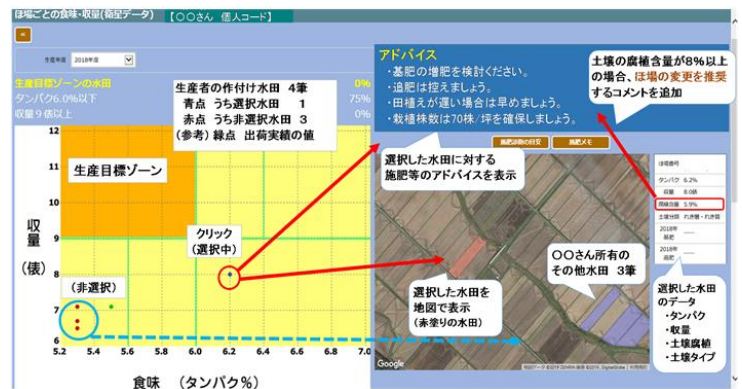
- ・「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチーム等を対象とした指導者研修会(3回)を開催し、指導力を強化しながら、ブランド米生産支援システム「青天ナビ」のデータやツールを活用した機動的な指導を実施

(出荷基準達成率：令和3年産 99.5% (最終) → 令和4年産 97.6% (12月末現在))

- ・情報紙「青天トピックス」を発行(3回)し、「青天の霹靂」の生産・販売情報を水稻生産者に発信



【指導者研修会】



【「青天ナビ」画像】

イ 「まっしぐら」等の食味・品質の高位平準化に向けた取組の推進

- ・生産者の良食味・高品質米生産に向けた意識啓発を図るコンクール「あおもりの旨い米グランプリ」を開催

(出品数：令和3年産 130点→令和4年産 121点)

- ・食味の指導ができる人財を育成する指導者向け研修会を開催(出席者：17名)



【あおもりの旨い米グランプリ受賞者表彰 12/20】

ウ アフターコロナにおける稲作経営の活路を拓く人財育成

- ・県内外の先進経営体を講師とした研修会を開催（3回）

② 水田農業体質強化加速化支援事業【新規】

コロナ禍による米価下落を契機に、省力・低コスト技術の導入や野菜等高収益作物への作付転換を促し、水田農業の体質強化を加速するため、JA等が主体となって描いた地域の水田農業の実現に向けた取組を支援

- ・水田農業体質強化加速化支援事業のほか、環境変化に対応した水田農業基盤強化事業（R3繰越）、原油・原材料価格高騰等対策事業のうち農作物の省エネルギー・省力・低コスト技術導入タイプの実施により、339経営体が省力化機械等を導入

(2) 土づくり

土壌の化学性・物理性・生物性の総合診断に基づく「土の見える化」や、高度な土づくりを指導できる人財の育成に取り組むほか、有機農業の産地化に向けた市町村の活動を支援するなど、農業生産の基本である「健康な土づくり」を推進します。

① 「日本一健康な土づくり運動」推進事業【継続】

農協などの関係機関と連携しながら、農業生産の基本である「健康な土づくり」に対する生産者の意識高揚、取組拡大と、GAPの普及拡大や取組のレベルアップを図り、本県農産物の安全・安心で高品質な生産体制を維持・強化

- ・高度な土づくりを実践し、指導的な役割を担う農業者を「あおもり土づくりの匠」として新たに4名認定（累計81名）
- ・指導者向けGAP研修の開催（2日間、2回）や個別指導等により、GAP認証取得産地数は、前年度から1件増加し、46件（令和4年12月現在）に拡大
- ・農業高校に対するGAP認証の審査費用等を支援（4校）



【指導者向けGAP研修】

② 「土の見える化」が拓く農業生産ステップアップ事業【継続】

農産物の高品質・安定生産と持続可能な農業の推進に向けて、土壌の物理性・化学性・生物性の三要素の総合診断による「土の見える化」の実践や環境にやさしい農業の取組拡大を図る実証や研修等を実施

ア 三要素の総合診断に基づく土づくりの推進

- ・土壌三要素の総合診断を実践する課題解決型モデル実証ほの設置（8か所）
- ・土壌の物理性・化学性・生物性に係る研修会の開催（1回）

イ 環境にやさしい農業の取組拡大

- ・有機農業などの担い手育成に向けた、「挑戦農場」を核としたエコ農業チャレンジ塾の開催（塾生33名、研修会等6回）
- ・市町村と連携したエコ農業モデル実証ほの設置と実証（2か所）
- ・あおもりエコ農産物販売協力店における消費者へのPR（166店）

ウ 高度な土づくりや有機農業を指導できる人財の育成

- ・有機JAS制度を指導する有機農業指導員養成研修の実施（1回）
- ・国主催の土づくりや有機農業に係る研修会への派遣（2人）



【土壌三要素に係る土づくり研修会】



【エコ農業チャレンジ塾】

(3) 野菜

基幹品目であるながいも、にんにくについて、産地力の強化を図るため、優良種苗供給体制の強化や民間企業との連携による省力技術の実証開発に取り組みます。

また、冷凍加工原料の供給を念頭においた大区画水田を活用した野菜生産に取り組む産地づくりを推進します。

① あおもりながいも生産力強化推進事業【継続】

ながいも出荷量日本一に向け、品種特性を維持するための種苗増殖方法の改善や新品種の早期導入のほか、省力栽培体系のシステム化と担い手の確保・育成の取組を推進

- ・種苗増殖方法の改善を図るため、催芽切いもを利用したモデル実証ほを設置（1か所）したほか、催芽切いもを利用して生産した種苗の導入効果の実証ほを設置（5か所）
- ・JA等の指導員及び普及指導員の指導力強化を図るため、生産性向上に向けた技術研修会を開催（1回）

- ・野菜研究所が育成した有望な2系統について、栽培技術を組み立てるための現地実証ほを設置（5か所）し、現地検討会を開催（1回）
- ・収穫から運搬までの省力化を図るため、野菜研究所において運搬台車等を活用した作業体系を実証
- ・若手生産者への篤農家技術を継承するため、ながいもプロフェッショナル養成所研修を実施（2回）



【催芽切いもを利用したモデル実証ほ】



【ながいもプロフェッショナル養成所研修】

② 技術力で未来へつなぐ青森にんにくブランド強化事業【新規】

県産にんにくのトップブランドの地位を将来にわたって堅持するため、労働力不足への対応や更なる高品質安定生産に向けた取組を推進

- ・品種登録出願した「青森福雪」の普及拡大に向けて、青森県にんにく新品種「青森福雪」普及推進協議会を設置し、新品種の位置付けや技術的な課題等について検討
- ・品種特性に応じた栽培技術を確立するため、J A、県民局、野菜研究所と連携して、新品種栽培技術現地実証ほを設置（5か所）
- ・労働力不足に対応した技術開発を推進するため、収穫期間を拡大する栽培技術の実証や、民間企業との連携による省力作業体系の実証及びドローンを活用した生育や病虫害診断技術を検討
- ・生産者への優良種苗増殖技術の普及に向けて、生産者及びJ A等の指導員、普及指導員を対象とした優良種苗増殖技術研修会を開催（2回）



【普及推進協議会】



【優良種苗増殖技術研修会】

③ 「冷凍野菜」産地創出チャレンジ事業【新規】

大区画水田を活用した野菜生産による安定的な収益の確保及び付加価値の高い県内食品産業の振興に向け、冷凍加工原料の供給を念頭に置いた産地づくりの契機となる取組を推進

- ・関係機関、民間企業を巻き込み、産地づくりを主導するワーキンググループを設置（五所川原市磯松地区、五戸町粒ケ谷地地区の2か所）し、冷凍加工原料用野菜を供給する取組を検討
- ・ワーキンググループの検討結果を実践する「チャレンジほ場」（ブロッコリー：五所川原市、かぼちゃ：五戸町）を設置（2か所）
- ・排水対策技術、収穫機械等による省力化実演会（4回）、収穫物検討会（1回）を開催
- ・冷凍野菜の産地づくりに向けた取組意欲向上のため、産地づくりセミナーを開催（1回）



【ワーキンググループ】



【ブロッコリー収穫機実演会】

(4) 果樹

りんごについて、高密度植わい化栽培などの導入による労働生産性の向上や、りんご黒星病の新規薬剤の効果的な使用などによる良食味・高品質生産の徹底に加え、生産技術と園地の円滑な継承に向けた仕組みづくりや輸出促進に向けて輸出先での流通・販売状況の調査などにより、生産体制の強化に取り組みます。

また、特産果樹については、生産性向上に向け施設導入を支援するとともに、「ジュノハート」の生産技術の向上や統一した出荷規格の定着等を図ることにより、高品質安定生産を推進します。

① 次代につなぐ青森りんご産地強化事業【継続】

「青森りんご」生産量44万トンを持続するため、次代の担い手に樹園地と栽培技術を継承しながら、高密度植わい化栽培など新たな栽培方式の導入と、加工原料の安定確保に向けた取組を実施

ア 栽培技術の継承と樹園地の集積・継承

- ・栽培技術と樹園地の出し手となる離農予定者の情報を整理するため、弘前市やつがる弘前農業協同組合の協力によりモデル地区を設定し、営農意向調査を実施（弘前市岩木地区）
- ・あおもり農業支援センターに設置した樹園地承継アドバイザーが離農や経営規模の縮小を考えている生産者など43名を対象に、剪定等の技術顧問の可否や園地の貸借等の条件について園地巡回による面談を実施（弘前市北地区・船沢地区、5～12月）



【面談の様子①】



【面談の様子②】

イ 生産効率の高い園地を取り入れた産地の推進

- ・機械導入の有利性を明らかにするため、りんご研究所と連携し、トラクターによる剪定収集や肥料散布、剪定枝破砕機の生産効率性調査を実施（4月）
- ・ふじとトキについて、つがる弘前農業協同組合及び東北農業研究センターと連携し、高密度栽培わい化栽培、ジョイント栽培（側枝上方誘引型、側枝下垂型）、朝日ロンバス栽培の収益性等を調査
- ・高密度わい化栽培をはじめとした省力樹形について、作業時間や経営収支の調査を実施（4月～2月）
- ・高密度わい化栽培では、通常の栽培よりも栽植本数が多く、フェザー苗を使用することから、苗木を早期に育成できる栽培管理や質の良い苗木を生産する方法を明らかにするため、フェザー苗木の養成管理調査を実施（4月～1月）
- ・省力樹形の導入に向けた情報を共有し、りんご生産効率化の課題や方向性について検討（9月）
- ・県内のりんご生産者（11名）へ軽労化が望まれる作業のニーズ性調査について聞き取り調査を実施（6～7月）

ウ 加工需要向け安定供給

- ・実需者と生産者の連携による加工りんご生産の収益性・生産性を検証するためのモデル園を設置（3か所）し、各モデル園ごとに現地検討会（6回）及び実績検討会（1回）を実施
- ・多様な加工需要の情報発信、普及啓発によるマッチングを促進するために「加工りんごマッチング相談・商談会」を開催。（7月 加工業者5社、生産者等13人）

② りんご黒星病発生防止の推進【継続】

ア 関係機関と連携した防除対策の展開

- ・りんご黒星病防除情報等配信サービス等による感染危険日情報の提供（４～６月）
- ・令和５年りんご病害虫防除暦の作成・配布（９～１２月）
- ・生産技術研修会、現地講習会等の開催（４～１０月）

イ りんご放任園等対策の強化

- ・りんご放任園対策連絡協議会の開催、現地指導（４～１２月）
- ・放任園の伐採処理（－ha 処理）←取りまとめ中

③ 青森りんご良食味安定生産推進事業【継続】

国内外で高い評価を得られる食味の良いらんごの安定生産を推進し、りんご生産者の収益性の向上を推進

ア 生産量の安定確保の推進

- ・知事によるりんご生産者現地激励の実施（７月、２園地）
- ・補助労働者マッチング活動の推進に向け、補助労働者募集チラシを作成・配布（８月）

イ 周年供給に向けた良食味りんごの生産推進

- ・生産技術研修会の開催（４月、６月、１０月）や生産情報の発行により、高品質生産に向けた指導を実施
- ・商品化率向上などメリット周知による有袋栽培への誘導

④ ウィズコロナ対応型輸出入りんご供給体制強化事業【新規】

コロナ禍の先行きが不透明な状況にあっても、県産りんごの供給体制強化を図るため、輸送環境等追跡調査や、輸出先での販売状況の把握とともに、特に輸出量の多い台湾の行政機関との連携強化を実施。

ア 輸送環境等追跡調査を実施

- ・台湾向け中秋節用輸出入りんごの追跡調査を再現試験に変更して実施（１０月）
- ・台湾向け春節用輸出入りんごの追跡調査を実施（１２月）
- ・調査に係る検討（輸出事業者、全農あおもり、りんご研究所、ジェトロ青森、植防弘前）
- ・ベトナム向け輸出入りんごの追跡調査（２月調整中）

イ 輸出先の情勢変化への迅速な対応

- ・台湾における県産りんごの販売状況調査を実施（１２月）
- ・台湾行政機関との意見交換を実施（１２月）

⑤ 特産果樹産地育成・ブランド確立事業【継続】

特産果樹の生産振興を図るため、苗木や支柱、樹棚導入に係る経費や雨よけハウスの導入に係る経費、簡易選果機の導入に係る経費、おうとう雨よけハウスの被覆資材

巻上機の導入に係る経費の補助を行い、優良品種の導入、生産性向上施設及び品質向上施設の整備について支援

ア 導入支援の内容

- ・生産基盤の整備（苗木、支柱、樹棚：3戸）
- ・生産高度化施設の整備（雨よけハウス：7戸）
- ・集出荷機械施設の整備（簡易選果機：1戸）
- ・品質向上施設の整備
（低コスト簡易型ハウス：1戸、おうとう雨よけハウスの被覆資材巻上機：1戸）

⑥ 「ジュノハート」ブランド化促進事業【継続】

「ジュノハート」のブランド力を高めるため、ブランド化戦略の推進、高品質大玉生産と流通・市場・小売店等に対する販売促進活動や消費者の認知度向上に向けたプロモーションを実施

⑦ 樹冠浸水被災りんご園地復旧対策支援事業【R4.9 補正 92,400 千円】

樹冠浸水により被害を受けたりんご園地における円滑な再生産を図るため、市町村が緊急的に実施したりんご園地の復旧対策に要する経費に対して支援
（実施市町村：弘前市、藤崎町、つがる市、板柳町、鶴田町）

参考：果樹産地再生支援対策（国）

被災園地における樹勢回復や堆積土砂の影響防止に向けた取組を支援

(5) 畜産

酪農・肉用牛の経営基盤の継承を支援する体制整備を図るほか、酪農経営の労働負担の軽減に向けた作業受託組織の育成や、先端技術を活用した作業機械の実証、農場 HACCP 等の認証取得を支援します。

また、感染のリスクが高まっている家畜伝染病への防疫対策に万全を期すため、効率的な衛生管理指導の実施に向けたオンライン化を進めるとともに、生産者に対する「飼養衛生管理基準」の遵守徹底の指導や、防疫演習の実施などに取り組みます。

① 畜産経営基盤の継承支援事業【新規】

畜産生産基盤の維持・発展のため、酪農・肉用牛経営の継承を支援する体制の整備や畜産業の体験機会の提供

ア 継承支援の体制整備

継承に係る意向や経営資源などの調査を実施

- ・酪農・肉用牛経営者に対し継承意向を調査 全 879 戸（うち回答 464 戸）
- ・継承意向を有する経営者に対し経営資源などを聞き取り調査 16 戸
- ・継承支援及び担い手確保に係る先進地調査を実施（群馬県、山形県）

イ 関係機関と連携した協議会の設置

継承意向を有する経営者と新規就農希望者の受け皿となる協議会を設置

- ・構成員：市町村、農協、県（事務局：農林水産部畜産課）

ウ 本県畜産業の体験機会の提供

小・中学生及び高校生や県営農大学校生など就労前の幅広い世代に対し、畜産現場を体験する機会を提供

- ・現場見学研修を実施 6回（6月、7月、10月、11月、2月）



【酪農施設見学研修】



【肉用牛施設見学研修】

② 酪農経営の労働力負担軽減実証事業【継続】

地域の実情に即した多様な形態の農作業受託組織の育成や、先端技術の活用などの新たな手法の導入による酪農経営の労働負担軽減を推進

ア 多様な形態の農作業受託組織の検討

- ・先端技術の実証結果や先進事例調査結果の伝達講習会の開催（1回）
- ・農作業受託組織の育成や既存組織の広域化の検討

イ 先端技術を活用した作業機械の実証

- ・オートフライトドローンによる飼料用とうもろこしへの農薬散布の実証試験及び検討会の開催（1回）
- ・作業効果の分析及び検証（委託）



【農薬散布実演会】



【農薬散布作業】

③ 畜産衛生管理・指導体制高度化推進事業【新規】

農場への効率的な衛生管理指導を実施するため、飼養衛生管理に係る相談や指導体制のオンライン化を進めるとともに、農場HACCP及びJGAPの認証取得を推進

ア 衛生管理・指導体制高度化推進（全畜種）

- ・衛生管理情報のデジタル化による情報の共有化と取組事例の発信（3回）
- ・オンライン化による早期通報体制の整備（各家畜保健衛生所）

イ 農場HACCP及びJGAPの認証取得推進（全畜種）

- ・オンライン化による指導のモデル実証（2戸）
- ・生産者向け勉強会の開催（1回）
- ・指導員のレベルアップのための講習会への派遣（8名）



【オンライン化の実証】



【オンライン化普及のための研修】

④ 特定家畜伝染病の防疫対策の推進【継続】

ア 「飼養衛生管理基準」遵守の徹底

- ・家畜飼育者に対し、野生動物の侵入防止等、家畜伝染病予防法に基づく飼養衛生管理基準の遵守に係る指導（全畜種を対象に衛生情報及び巡回により周知・指導）
- ・家畜飼育者自らによる定期的な飼養衛生管理の点検実施に向けた指導（養豚及び養鶏農場を対象に、病原体の侵入防止に係る項目を重点指導項目として、定期的に自己点検結果の報告を実施）

イ 防疫体制の整備推進

- ・防疫演習の反復実施等により、庁内及び地域の危機管理体制の強化（庁内では、動員者を対象に防疫演習を実施。地域では、防疫拠点の設置・運営について演習を実施）
- ・家畜飼育者等を対象とした防疫研修会等による家畜伝染病の発生防止及びまん延防止対策の周知（養鶏農場を対象に防疫作業の内容やオンラインによる早期通報体制等研修会を実施）
- ・高病原性鳥インフルエンザの監視のため、飼育鶏の死亡状況の報告を求めるとともに、定期的なモニタリング検査の実施（100羽以上家きん飼育農場を対象に死亡状況等の毎週報告の実施。また、モニタリング検査は、毎月実施15農場、年1回実施30農場について実施）



【防疫演習(防護服着衣)】



【モニタリング検査】

⑤ 全国和牛能力共進会鹿児島大会対策推進事業【継続】

第 12 回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けた出品候補牛のレベルアップを図るとともに、「あおもり和牛」の P R 対策の実施

ア 出品牛のレベルアップ

定期巡回による出品牛の飼育管理指導や調教等の出品技術向上対策を実施したほか、大会会場（鹿児島県）までの出品牛の輸送・衛生対策を実施

イ 「あおもり和牛」 P R と大会成績を踏まえた技術強化対策

大会会場において P R ブースを設置・運営し、全国の和牛関係者や消費者等へ「あおもり和牛」を P R。大会開催後は、次回大会に向けた出品体制強化のための対策を取りまとめ

⑥ 配合飼料価格高騰緊急対策事業【R4.9 補正 671,000 千円】

配合飼料価格の高騰により経営環境が悪化していることから畜産経営の維持・継続のため、生産性の向上に向けた飼養衛生管理基準の遵守、国産飼料への切替え及び高品質な素畜導入などを実施する畜産経営体に対し、配合飼料費の価格上昇分の一部を補助（14 団体が申請窓口となり、延べ 686 経営体に交付予定）

(6) 林業

高性能林業機械等の導入支援などにより、間伐等森林整備を推進するほか、森林資源の効率的な管理に向けた森林計測手法を確立するなどスマート林業の導入を進めます。

また、県産材の需給安定に向けて、森林クラウドを活用したマッチングシステムの構築を進めるとともに、県産材の利用促進などに取り組みます。

① 林業・木材産業等振興施設整備事業ほか【継続】

- ・森林組合等による搬出間伐や林内路網（林業専用道（規格相当））の整備を支援（440m）
- ・県内の林業事業体が効率的な伐採・運搬作業を行うことのできる高性能林業機械の導入を支援（14 台）

② スマート林業導入推進事業【継続】

空中写真等のリモートセンシング技術を用いた森林計測手法について、手法ごとのコストと精度を検証し、低コストで森林資源情報を把握する手法を確立するため、森林総合研究所に業務を委託

③ 林業・木材産業グリーン成長推進事業【新規】

県産材の需給安定と利用促進に向けて、森林クラウドを活用した原木供給のマッチングを進めるほか、民間商業施設や住宅での県産材利用を促進する取組を実施

ア 県産材の需給安定対策

- ・マッチングシステムの構築に向けた、県産材流通の実態調査等を実施
- ・林業・製材事業者の経営安定化のための勉強会の開催

イ 県産材の利用促進

- ・一般消費者等に県産材住宅をPRするため、県内のショッピングモール等においてイベントを開催し、住宅相談会やオンライン住宅見学会を実施
- ・県産材の認知度向上とイメージアップを図るため、首都圏での展示会への出展や県内外の建材商社等と県内の製材業者によるオンライン展示商談会を実施



【オンライン住宅見学会】



【展示会への出展】

(7) 水産業

漁業者の所得向上と経営安定を図るため、陸奥湾ホタテガイの生産体制強化に向けた成貝づくりの促進や、小型いか釣り漁業の安定化に向けた経営改善に取り組むとともに、TAC制度の運用や沿岸から沖合まで一体的かつ広域的に捉えた増殖場、魚礁漁場の整備により水産資源の維持・増大を図ります。

また、「青い森紅サーモン」養殖業者の生産力強化など、つくり育てる漁業を推進します。

① ホタテガイ成貝づくりによる生産体制強化事業【新規】

天然採苗の安定に向けた成貝づくりを推進するため、座談会を開催して合意形成を図るとともに、漁場環境変化に対応する成貝養殖リスク低減対策を検討し、その結果を漁業者へ普及

ア 成貝づくりの合意形成

- ・成貝づくりを推進するための座談会を6～10月に延べ25回開催

イ 漁場環境変化に対応する成貝養殖リスク低減対策の検討

- ・成貝養殖におけるへい死低減のため、養殖籠の種類や収容枚数等の条件を変えて試験区を作成
- ・成長阻害要因となる付着生物の浮遊幼生の発生状況を4地点で週1～2回調査



【座談会】



【付着生物(サンカフジツボ)の幼生】

② 小型いか釣り漁業の経営安定強化事業【新規】

スルメイカの漁獲量が大きく減少する中、産地価格向上につながる出荷手法の改善に向け、流通調査や鮮度保持試験を実施するとともに、地域の漁業形態に適した経営改善指標を作成、普及

ア 産地価格向上につながる出荷手法の検討

- ・産地価格向上に向けた産地市場や消費地市場におけるスルメイカの取引実態を調査し、価格向上の可能性を検討
- ・スルメイカの高鮮度出荷の技術開発（活締め）のための試験を実施

イ 小型いか釣り漁業の経営改善指標の作成

- ・東通村白糠地区において地域研究会を3回開催し、アの結果を含めて経営改善に向けた指標を作成

ウ 経営改善指標の普及

- ・地域研究会や講習会において普及



【いか釣り漁業の操業の様子】



【活締め直後(上段)と未処理(下段)のスルメイカ】

③ 水産資源管理の推進【継続】

ア 資源管理計画、漁場改善計画の取組指導及び履行確認による資源管理・収入安定対策（継続）

- ・ 関係 48 漁協に対する資源管理計画や漁場改善計画に基づく取組を指導
- ・ 毎月 1 回、県資源管理協議会で資源管理計画の履行を確認

イ スルメイカ、マサバ・ゴマサバ、クロマグロ等の漁獲可能量管理（継続）

- ・ 新漁業法の下、「青森県において水産資源の保存及び管理を行うための方針」に基づく T A C 管理を引き続き実施
- ・ 特に、クロマグロについては、関係漁協に対して締結された知事認定協定に基づいた漁協別の漁獲枠管理等を指導



④ **良好な漁場環境の創出【継続】**

【資源管理PRパンフレット】

魚類の産卵や稚魚の生息場所となる藻場をはじめ、幼魚の育成場、成魚の漁獲場所となる魚礁漁場を、沿岸から沖合まで一体的かつ広域的に整備

- ・ 14 漁場で藻場などの増殖場や魚礁漁場を整備



【藻場に集まるウスメバルの稚魚】



【三厩沖の魚礁漁場に設置する礁体】

⑤ **「青い森紅サーモン」生産力強化事業【新規】**

ア 新たな養魚場候補であるサケふ化場において、水質等環境調査及び成長段階別の飼育試験を実施

イ 溶存酸素自動警報システムを開発

ウ 販売・P R 関係の取組方針等を協議するため、生産者や流通業者等で構成する協議会を開催（1 回）

エ 令和 4 年 10 月から今期の本格販売を開始（令和 4 年度生産量約 15 トン）



【青い森紅サーモン】



【サケふ化場での飼育試験】

Ⅲ 環境・生産基盤保全 ～山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全～

健全な「水循環システム」を保全していくため、次代を担う子供たちに対する学習機会の創出や、県民への普及啓発につながる活動に取り組みます。

また、豊かな地域資源を未来に引き継ぐため、生産基盤や農山漁村の生活環境の整備を進めるとともに、水田等を活用した雨水貯留やため池などの農業水利施設の防災・減災対策、再造林の推進や、松くい虫・ナラ枯れの被害防止対策の徹底など「環境公共」の取組を推進します。

① 食と生活を支える水循環システム保全活動促進事業【新規】

ア 多様な活動主体による水循環システム保全活動の促進

- ・ NPO法人や企業など多様な活動主体による保全活動を通じた県民への普及啓発とSDGsの取組を推進（2団体）
- ・ 『水の日・水の週間』の周知を通じた水循環システムのPR活動として、ラジオ番組の制作による広報を展開（8月）



【活動例:つがる野自然学校による子供向け環境教育】



【水の日PRポスターの掲示:国提供】

イ 健全な水循環システムを守る次世代の育成

- ・ 農業水利施設等を現地見学し、水循環システムを学ぶ校外学習会を青森県土地改良事業団体連合会と連携して実施（9校）
- ・ 水循環システムの理解を深める出前講義を小学校ごとに実施（2校）



【温湯頭首工見学:平川市立平賀東小学校】



【百石漁港見学:十和田市立西小学校】

② 食料生産の基礎となる農地・水路・農道等の生産基盤の計画的な整備【継続】

- ・農業生産基盤づくりを推進するため、経営体育成基盤整備事業 18 地区と農地中間管理機構関連農地整備事業 7 地区、農地耕作条件改善事業 10 地区で、ほ場の区画拡大や暗きょ排水、用排水路を整備
- ・農業生産の基礎となる「安全・安心な水資源」を確保するため、策定した機能保全計画に基づき、17 地区で対策工事を実施
- ・農作物の集出荷作業の効率化、品質低下の防止などを図るため、23 地区で農道を整備



【区画整理後（板柳町 深味長野地区）】



【農道整備（五所川原市 五所川原第二地区）】

③ 農業用水等の水質や農漁村地域の生活環境の改善【継続】

農業集落において、農業用水の水質保全や農村の生活環境の改善を図るため、農業集落排水施設の点検診断等を適切に行い、農業集落排水事業 3 地区で老朽化対策等を実施



（上澄水排出装置の更新）



（電動弁箱の更新）

【集落排水処理施設の機器更新状況（おいらせ町、おいらせ町北部地区）】

④ 農村地域防災力強化事業【新規】

洪水被害の軽減を図るため、農村地域の水田や農業用ため池等が持つ雨水貯留機能の実証試験等を実施

ア 水田及びため池の雨水貯留効果検証

- ・蓬田村阿弥陀川流域のほ場において、田んぼダム用堰板を設置し雨水貯留効果の実証試験を行うとともに、流域全体としての水田や農業用ため池が持つ雨水貯留効果を検証
- ・田んぼダム取組マニュアルやパンフレットの内容を検討するため、土地改良区や生産者等による農村地域の雨水貯留効果に係る検討会を開催（2回）

イ 水田等を活用した雨水貯留の取組促進

- ・実証試験ほ場において現地説明会を開催（2回）



【検討会の状況】



【現地説明会の様子(蓬田村)】

⑤ **農業水利施設管理電力価格高騰緊急対策事業【R4.11 補正 81,423 千円】**

地域排水などの公益的な役割を担っている農業水利施設の管理に係る電気料金の高騰相当分を補助（56 土地改良区に対して交付予定）

⑥ **林地保全型伐採・再造林推進事業【継続】**

- ・再造林を推進するため、林地の条件ごとに収益を示す森林所有者向けの森林経営プランを作成
- ・林地の保全に配慮した伐採作業を推進するため、林業事業者向けガイドラインを作成

⑦ **森林病虫害被害の総合的な防除対策【継続】**

- ・深浦町及び南部町における松くい虫被害対策や、深浦町をはじめとする 7 市町村におけるナラ枯れ被害対策を実施

ア 監視対策

- ・松くい虫防除監視員による地上目視調査やドローンを用いた上空探査を実施し、被害木を早期に発見
- ・深浦町及び南部町においては県防災ヘリコプター（5 月、8 月、9 月）やデジタル航空写真により広範囲な探査を実施し、被害木を早期に発見（9 月、西津軽：202 km²、県南：122 km²）
- ・被害木周辺半径 100m 範囲内でのヤニ打ち調査を実施し、マツ異常木等を発見

イ 駆除対策

- ・発見した被害木等のくん蒸処理等を実施
- ・被害の感染源となる衰弱木等の除去や適切な森林整備を実施
- ・ナラ枯れ被害の状況が「青森県ナラ枯れ被害対策基本方針」で示す「被害発生中期以降」の民有林では、おとり丸太を設置してカシノナガキクイムシの誘引捕殺を実施（10 か所）

ウ モニタリング調査

- ・マツノマダラカミキリ生息調査（県内 92 か所）やカシノナガキクイムシ生息調査（中南・西北地域：14 か所）を実施

エ 普及啓発、被害対策の検討

- ・森林病虫害被害に関する研修会を開催（10 月）
- ・県ホームページや広報番組（ラジオ 3 回）などにより、情報提供や枯死木等の通報の呼び掛けを実施
- ・関係機関と連携した被害対策検討会（7 月、10 月）や被害対策協議会（1 月）を実施

オ ナラ枯れ被害に対する新たな駆除手法の検証

- ・ナラ枯れ被害木を薪に加工することによる、カシノナガキクイムシの駆除効果を検証（深浦町 1 地区）



【松くい虫被害:深浦町追良瀬地区】



【ナラ枯れ被害激害地:深浦町黒木地区】

Ⅳ 農山漁村振興 ～連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり～

人口減少・超高齢社会を支える仕組みづくりを進めるため、地域経営体のレベルアップを図る取組への重点的支援や、「地域経営」の仕組みの確立に向けたモデル集落及びそれを伴走支援する中間支援組織を育成するとともに、地方分散・田園回帰の高まりに対応しながら、本県農林水産業・農山漁村の魅力発信による移住・定住を促進する機運を醸成します。

また、農泊需要の回復に向けて、ウェブを活用した本県ならではの体験メニューの情報発信や、教育旅行の本格再開に向けた受入態勢のPR展開に加えて、漁村のにぎわいを創出するため、新たな「漁業体験ツール」を開発するなど、県内外からの誘客拡大を図るほか、農福連携の取組拡大や農山漁村女性のネットワークを生かした地域づくりの促進に向けて、多様な分野との連携・協働・交流を進めます。

① 青森県型地域共生社会の実現に向けた地域経営確立事業【継続】

青森県型地域共生社会の実現に向け、地域経営体のレベルアップを図る取組を支援するとともに、「地域経営」の仕組みの確立に向けたモデル集落及び伴走支援する中間支援組織を育成

ア 地域貢献型マネジメントの定着

- ・市町村のマネジメント部会で、農山漁村における青森県型地域共生社会の実現に向けた「地域経営」の核となる人財の育成や体制づくりを検討
- ・担い手の資質向上や組織体制の強化、新規作物の導入、地域貢献体制の検討など地域が提案した具体的な取組を支援（21 市町村地域担い手協議会等）

イ 地域貢献型経営体のレベルアップ

- ・地域経営体による地域貢献の取組（若手生産者との交流促進、女性の活躍促進、農福連携、食育の推進等）や、経営発展の取組（新技術の導入による省力化・軽労化、雇用の拡大等）を支援（11 地域経営体）

<特徴的な事例>

実施主体	主な事業内容	期待される効果
株式会社シャンティ（弘前市）	・りんご栽培での高所作業機の導入による女性作業員の雇用促進、農作業の安全性確保 ・新商品開発への取組、りんごジュースラベルのリブランディング	・りんごの生産・販売・ブランド力強化等における女性の活躍促進 ・女性と障がい者との農作業連携による農福連携の促進
野呂 修聖（つがる市）	・枝豆収穫機の導入による毛豆の収穫から脱莢等調製作業の大幅な省力化 ・実演会を通じて成果を地域へ波及	・高収益作物として毛豆の大規模化の先進的取組事例の実証 ・地域の耕作放棄地の抑止効果

ウ モデル集落等の育成及び地域経営のサポート

- ・ N P O 等の中間支援組織の支援を受けながら地域経営体と地域が密接に結び付き、地域課題の解決に向けて活動するモデル集落の育成（6モデル集落）
- ・ 地方自治体職員や中間支援組織等が、集落に寄り添って地域づくりをサポートするための集落活動支援マニュアルの改訂（弘前大学委託）
- ・ 市町村の地域担い手育成総合支援協議会が中心となって、幅広い層の担い手、関係団体等でマネジメント部会を組織し、意見交換を促進するファシリテーターを活用しながら地域課題やその対策などについて検討
- ・ 集落など地域と経営体とがともに発展する「地域経営」の進め方、中間支援組織の活かし方等に係る講演及び総合討論の実施（令和4年11月2日）



【実務者向け研修会】

② 「農林水産業の魅力で人財を呼び込む」活動支援事業【継続】

ア 市町村や関係機関等と連携した人財を呼び込む推進体制の整備

- ・ 昨年及び今年度実施した人財を呼び込む取組等について、県内市町村へ波及させるための情報提供を実施（年度末、ブリーフィング実施予定）

イ 本県農林水産業への就業や、本県でのライフプランを具体的にイメージできるコンテンツの作成

（ア）「農林漁業への就業と本県での暮らしをイメージできる」動画の作成

- ・ 市町村及び部内関係課と連携し、本県へ移住し、農林漁業へ就業した優良事例を4者選定するとともに、これらの就業者の実体験を基に、就業と暮らしの情報を組み合わせた動画を4パターン作成



【動画の一場面（りんごVer）】

【動画概要】

- ・弘前市：女性、Iターン、農業（りんご）、半農半X（子育て等）
- ・五戸町：男性、Uターン、農業（ながいも）、親元就農
- ・東通村：男性、Iターン、酪農、配偶者の実家へ親元就農
- ・八戸市：男性、Uターン、林業、森林組合への就職

（イ）「本県農林漁業の主要作業を体感できる」VR動画の作成

- ・本県の主要な農林水産物について、収穫までの主要作業を体感できるVR動画を4パターン作成

【VR動画概要】

- ・りんご：摘果、袋掛け、摘葉、収穫、選果・箱詰め
- ・ながいも：追肥、薬剤散布（ブームスプレーヤー、ドローン）、収穫、選果・箱詰め
- ・酪農：採草、ロールづくり、給餌（手作業・自動）、子牛へのほ乳、搾乳
- ・林業：植林、下刈り、枝打ち、伐倒（チェーンソー、ハーベスタ）

（ウ）動画・VR動画の活用

- ・作成した動画等を動画共有サイトへ掲載し、県外在住者をターゲットにウェブ広告を展開することで、移住希望者等の目に留まる機会を創出

ウ 市町村が実施する「就業体験会」の情報発信を実施

- ・市町村等が主催する農林漁業の就業体験会の開催情報をウェブ広告として情報発信

【広報・広告を行った市町村詳細】

- ・10月広告：弘前市、十和田市、六ヶ所村
- ・11月〃：青森市、七戸町、五戸町

③ あおもり型農泊誘客拡大事業【継続】

グリーン・ツーリズムの誘客拡大のため、ウェブを活用した本県ならではの体験メニューの情報発信・販売の促進と、国内外の教育旅行の本格再開に向けた安全な受入態勢のPRを実施

ア 国内外からの一般旅行対策

- ・国内外からの一般旅行客の誘客拡大を図るため、グリーン・ツーリズム受入実践者を対象としたウェブスキルを習得する研修会等を実施

1 回目	期日 : 令和4年7月26日(火) 場所 : 青森県総合社会教育センター 対象 : グリーン・ツーリズム実践者、受入団体関係者 等 内容 : 顧客にささるSNSを活用した情報発信 〔講師:株式会社ビヨンド 大城琴音氏〕 マタギ文化を活用した宿 世界への発信方法 〔講師:マタギの宿 ORIYAMAKE 織山英行氏〕 グリーン・ツーリズムにおけるウェブ活用基礎編 〔講師:株式会社アクティビティジャパン 佐々木心也氏〕 出席者:16名
2 回目	期日 : 令和4年12月20日(火) 場所 : 青森県観光物産館アスパム 対象 : グリーン・ツーリズム実践者、受入団体関係者 等 内容 : Google ビジネスプロフィール活用方法 〔講師:株式会社コムサポートオフィス 今井ひろ子氏〕 大手OTA事業者の取組紹介 〔参加OTA:株式会社リクルート、楽天ステイ株式会社〕 質疑応答及び各OTA事業者と相談会 出席者:12名

- ・ウェブ活用による情報発信に向けた個別サポートの実施

対 象	支援を希望するグリーン・ツーリズム受入実践者・団体
支援内容	カメラマン、ライター等の専門家が、支援を希望するグリーン・ツーリズム受入実践者に対し、写真の撮影方法、文章作成等のコツの説明や実演を行うとともに、作成した写真や文章等を無償提供し、受入実践者のウェブ販売等に活用
実 績	① 令和4年9月22日 いしやま(平川市) ② 令和4年9月27日 初駒の里(黒石市) ③ 令和4年10月18日 農家民宿★すずれあな(つがる市) ④ 令和4年11月15日 かみはらこ(七戸町) ⑤ 令和4年11月15日 ホッと庵・円山(五所川原市) ⑥ 令和4年11月22日 西館農園(南部町)



【撮影技術のレクチャー】



【サイト掲載に向けたヒアリング】

・ あおもり型グリーン・ツーリズム体験メニュー等特集ページの作成

サイト名	aomori green tourism (株式会社百戦錬磨に委託)
掲載期間	令和4年8月31日～令和5年1月31日
掲載メニュー	① りんご狩りタクシー（青森市） ② 農家蔵の町並みと農家の庭園を巡るガイドツアー（平川市） ③ 北のフルーツパーラー体験（南部町） ④ 津軽鉄道ストーブ列車で行く真冬の野菜収穫体験（中泊町） ⑤ 流鏝馬レッスンと八幡馬絵付け体験（十和田市） ⑥ 夏から秋のイチゴ収穫体験（むつ市）



【特集ページ】

りんご狩りの「どこに？どうやって行けばいいの？」問題を解決する便利なタクシーがあるなら利用するしかありません



【メニュー紹介ページ】

・ あおもり型グリーン・ツーリズムツアーのモデル販売

実施日	令和4年10月22日（土）～10月23日（日）（1泊2日）
ツアー名	馬文化・農業・旬のフルーツを味わう「青森南部旅」
参加者	15名（県内在住者）
行 程	○10月22日 八戸駅→称徳館（十和田市）→道の駅奥入瀬ろまんパーク（十和田市）→十和田乗馬倶楽部（十和田市）→金子ファーム（七戸町）→南部町役場 ※南部町内農林漁家民宿泊 ・乗馬・弓・流鏑馬体験、南部曲屋見学、農泊体験 等 ○10月23日 南部町内農林漁家民宿→農林漁業体験実習館チェリウス・町内りんご園（南部町）→八食センター（八戸市）→八戸駅 ・農作業体験、りんご収穫体験、パフェ作り 等



【乗馬体験】



【南部町産りんごを使用したパフェ作り】

イ 国内からの教育旅行対策

- ・ 国内の教育旅行関係者が、現地で感染症対策を下見・体験できる招請ツアーを実施

（ア）時 期：令和4年8月2日（火）～8月3日（水）

（イ）招請対象：名鉄観光サービス株式会社 苫小牧支店（1名）

（ウ）委 託 先：農業法人株式会社グリーンファーム農家蔵



【花炭づくり体験】



【意見交換会】

- ・「青森県農林漁業体験民宿新型コロナウイルス感染症対策DVD」を活用した北海道と首都圏の学校や旅行エージェント等へのプロモーション活動を実施

実施日	内容	場所
令和4年7月6日	東北教育旅行セミナー 札幌会場	北海道
令和4年7月21日	東北教育旅行商談会 東京会場	東京都
令和4年8月21日	関東地区中学校修学旅行委員会現地研修会	青森県
令和4年8月31日	北海道道央地区教育旅行 AGT、学校キャラバン	北海道

ウ 海外からの教育旅行対策

- ・オンライン交流や知事による台湾の学校等への訪問を通じて、教育旅行誘致に向けたプロモーションや相互交流を推進

実施日	内容	備考
令和4年5月31日	高雄市立陽明国民中学と交流	オンライン交流
令和4年12月12日	高雄市立陽明国民中学訪問	訪台による プロモーション
令和4年12月13日	台湾政府教育部 感謝状贈呈式 台中市華盛頓高級中学訪問	
令和4年12月14日	台北市政府教育局訪問 東海高級中学訪問	
令和4年12月15日	慈済大学付属高級中学訪問	
令和4年12月16日	松山高級中学訪問 台湾教育旅行商談会出席	



【オンライン交流】



【台湾政府教育部 感謝状贈呈式】

④ 漁港や藻場を活用した漁村のにぎわいづくり推進事業【継続】

漁村のにぎわいを創出するため、漁港内の増養殖場や藻場を活用した新たな「漁業体験ツール」の開発

ア 漁業関係者、観光業者、接客の専門家、県等で構成する検討会を設置（検討会開催：2回）

イ モデル漁港での実践（佐井漁港、7月）



【ウニ突きの漁業体験】



【魚のさばき体験】

ウ 増養殖場や藻場を活用した「漁業体験ツール」の仕立て方と、漁業者によるお客様を満足させる「おもてなし」の仕方を検討・開発（藻場活用編、養殖いけす活用編、泊地活用編の3種類）し、1冊の手引きに取りまとめて漁業関係者に配布

⑤ 農福の輪を広げる人財育成推進事業【新規】

農業者等に対して、農福連携に踏み出しやすい環境の整備と理解促進に向けた取組を進めるとともに、ニーズをつなぐ人財の育成を実施

ア ワンストップ窓口の機能を活かした取組拡大

- ・ 県内で初となる農福連携の関係者を一堂に会した「青森県農福連携推進会議」を開催（7月、2月）
- ・ 6 県民局で地域内の農福連携関係者を参集した連絡会議を開催
- ・ 県内の共同受注窓口（福祉側）に各福祉事業所の受入体制のデータベース化を委託

イ 農業者の理解度向上とメリットの発信

- ・ 県内 9 農協を通じて、農業者が試みに障がい者に作業を委託するチャレンジ農福を実施（42件）
- ・ ノウフク J A S 取得や農福商品販売活動の推進に向けたセミナーを開催（25名参加）
- ・ 各地域ごとに「ノウフクマルシェ」を開催（健康福祉部と連携）

ウ 農福ニーズをつなぐ人財育成

- ・ 県段階における農業ジョブトレーナー研修を開催（31名参加）
- ・ 特別支援学校卒業生の就農率向上に向け、教員と農業者の交流会を実施（13名参加）



【農業ジョブトレーナー養成研修】



【特別支援学校教員と農業者の交流会】

V 人財育成 ～農林水産業の成長と共生社会を支える人財育成～

高い経営力を持った人財の確保に向けて、将来の担い手となる新規就業者の確保に加え、経営開始時の支援強化や、経営基盤を第三者へ承継するための仕組みづくりを進めるとともに、非農家出身者の定着促進に向けた支援や若手農業トッパーランナーの育成強化により、地域をけん引するリーダーや様々な環境の変化に対応できる多様な人財の育成に取り組みます。

また、郷土料理の魅力等の情報発信や食文化・事業の継承に取り組むなど農山漁村女性の活躍を促進します。

① 新規就農者定着推進事業（継続）

ア 自主課題解決活動の実践に対する技術・経営指導を実施

- ・各地区の4Hクラブ員が農業を実践する中で発生した諸問題を解決するための手法であるプロジェクト活動への支援を実施
- ・プロジェクト活動の成果を相互に交換する場として、プロジェクト及び意見発表の県大会を開催

開催日 令和5年2月3日（金） 新町キューブ

内 容 各地区の4Hクラブ員が、実施しているプロジェクト活動等を発表

参加者 県内農業青年、関係機関（54名）

イ 4Hクラブ員等の交流促進により仲間づくりをサポート

- ・4Hクラブ員を対象とした交流イベントを開催

①第26回青森県農業青年交流大会

期日 ：令和4年6月17日（金）

場所 ：おぐにふるさと体験館（外ヶ浜町）

内容 ：先進事例紹介、調理加工体験、スマート農業体験会

参加者：農業青年、関係機関（55名）

②県内視察研修

期日 ：令和4年8月23日（火）

場所 ：有限会社金子ファーム（七戸町）

内容 ：畜産における循環型農業の取組及び農産物の販売・加工等

参加者：農業青年、関係機関（12名）



【青森県農業青年交流大会（調理加工体験）】



【県内視察研修：（有）金子ファーム】

ウ 東北・全国段階の行事や研修会等へ農業青年リーダーを派遣

- ・東北や全国の農業青年リーダーとの情報交換・交流、研修会参加等を通じて、将来の地域をけん引するリーダーとしての資質向上を図るため、これまで14名（4回）を派遣

② あおもり新農業人サポート事業【新規】

ア デジタル化に対応した情報発信

（ア）新規就農者向けウェブサイトの開設

- ・県内農業者及び就農希望者への情報発信機能を強化した青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」を作成し、令和5年3月に運用を開始

（イ）本県単独のオンライン就農フェアの開催（年2回）

- ・若者と農業法人等とのマッチングを目的とした県独自の就農フェア「あおもり新・農業人フェア」をリアルとオンラインのハイブリッド型で開催

【リアル開催及びオンライン配信】

期日：令和4年7月30日（土）13:00～17:00

場所：東奥日報新町ビル 3階 New'sホール催事場E

出展団体：農業法人15社、独立就農支援2団体、営農大学校 計18団体

参加者数：会場来場40名、オンライン参加9名



【あおもり新・農業人フェア（リアル開催）】

【オンライン開催】

期日：令和4年7月31日（日）13:00～17:00

場所：Zoomによるオンライン開催

出展団体：農業法人5社、独立就農支援2団体 計7団体

参加者数：7名

イ 非農家出身者の定着支援

（ア）新規就農メンターの認定

非農家出身の先輩農業者15名を「新規就農メンター」として認定し、令和4年12月末現在で、25件の相談実績

（イ）非農家出身者の再チャレンジを支援

就農3年目から6年目の非農家出身の独立自営就農者が経営改善に向けて機械等を導入する際に必要な経費を補助（14件）

ウ 高校生等に向けた雇用就農の魅力発信

(ア) 農業法人経営者による出前授業の開催

- ・進路選択に直面する県内農業高校生等を対象に、農業を職業として認識させることを目的とした農業法人による出前授業を実施

日 程	対象校	参加者	派遣法人
9月8日	柏木農業高等学校	26名	①ジャパンアップル(株) ②(株)アグリーンハート ③(株)RED APPLE
11月30日	三本木農業高等学校	9名	(株)甲田ふぁ～夢
12月22日	八戸学院大学	80名	ジョイント・ファーム(株)
令和5年 1月25日	三本木農業高等学校	約120名	①(株)川長 ②カリーナファーム ③(株)美保野ポーク ④(有)小比類巻家畜診療サービス



【農業法人経営者による出前授業（三本木農業高等学校）】

(イ) 県内農業法人の県外就農フェア参加による求人ノウハウの習得

- ・全国規模の就農イベントである「新・農業人フェア」に県内農業法人2社を派遣し、求人ノウハウを習得

(ウ) 雇用就農ガイドブックの作成及び配布

- ・先輩雇用就農者のインタビューや農業法人131社の情報を取りまとめた雇用就農ガイドブックを1,500部作成し、県内の農業高校等に配布

エ 若手農業トップランナーの育成強化

(ア) 新たな塾生の育成と修了生とのリレーションシップ強化

- ・若手農業トップランナー塾第14期生15名を対象に、経営管理やマーケティングをテーマとしたセミナーや、先輩塾生等の優良な経営事例を学ぶ視察研修を開催
- ・先輩塾生や異業種とのネットワークづくりを目的としたマルシェイベント等へ

の参加誘導

③ 思いをつなげる農業の第三者承継推進事業【継続】

ア 推進モデルとなる取組の支援

- ・ 第三者承継を取組意向のある個人、法人に知見を有する専門家を派遣し、伴走型による取組のモデル化を支援（令和5年1月末現在 延べ9回派遣）

イ 第三者承継の機運醸成

- ・ 第三者承継の地域ぐるみのサポート体制の構築に向けて、農業者、行政、農業委員、J A、金融機関、士業等の幅広い対象者を参集した「農業の第三者承継推進フォーラム」を開催（参加者50名）

ウ 地元サポート人財の育成

- ・ 第三者承継を地元で支援できる人財の育成に向けて、県内2会場で計3回の「農業の第三者承継推進に向けた指導者養成研修会」を開催

期日	令和4年12月 7日、12日、13日	令和4年12月 14日、21日、22日
会場	県南会場 八戸市総合福祉会館	津軽会場 弘前市民会館、弘前市総合学習センター
内容	第1回 ・ 第三者承継の意義、青森県内の第三者承継事例等 講師：J－P A O上席コンサルタント 高田裕司氏 第2回 ・ 第三者承継の基本的なポイント 講師：中小企業診断士 村上一幸氏 ・ 第三者承継の専門的なポイント 講師：税理士 森剛一氏 第3回 ・ 第三者承継のケーススタディ 講師：J－P A O上席コンサルタント 高田裕司氏 中小企業診断士 村上一幸氏 税理士 森剛一氏	
参加者	農業者・農業委員、市町村担農業者・農業委員、市町村担当者等	
	24名	25名



【農業の第三者承継推進に向けた指導者養成研修会（県南会場）】

④ 青い森林業アカデミー運営事業【継続】

森林整備を担う人財の確保・育成のため、就業希望者を対象に、林業に関する基礎的知識や技術の習得を支援する1年間の研修として「青い森林業アカデミー」を開講（7名受講）

- ・高校新卒者を含む研修生に対して、資格取得やチェーンソー操作、インターンシップ等の研修を実施
- ・令和5年度研修生募集に向けた参観デー（2回）及びオープンキャンパスを開催（1回）
- ・学識経験者や教育機関、関係団体等で構成する運営協議会を開催（2回）



【資格取得(車両系建設機械)】



【オープンキャンパス】

⑤ 農山漁村女性が伝え継ぐ青森の食と技魅力創造事業【新規】

本県の郷土料理の魅力を幅広い世代に情報発信するとともに、作り手である農山漁村女性の技術、事業の継承を推進

また、「食」を生かした地域の課題解決に取り組み、地域共生社会の実現を目指す
ア 伝承すべき郷土料理、食文化の情報発信

- ・郷土料理を身近に感じてもらうために、少ない材料で簡単にできる郷土料理を選定しレシピ集を作成（40品）
- ・特に作業工程が多い郷土料理を選定し動画を配信（8品）
- ・郷土料理を食べる機会の創出に向けた農家レストランフェアを開催

イ 食文化・事業継承の推進

- ・餅類や漬物類等の技術の伝承に向けた研修会を開催（県民局ごとに2回）
- ・事業継承に係る制度や法律、優良事例を学ぶ研修会を開催（県民局ごとに1回）
- ・女性起業331件を対象に事業継承の意向等を意向調査し、その結果に基づきマッチングを実施

ウ 食に着目した地域活動のモデル実証

- ・農山漁村女性が得意とする「食」をテーマとした郷土料理の伝承活動や総菜の移動販売等、地域課題解決につながるモデルを実証（6件）



【「きんかもち」の技術研修会(三八地域)】



【地域に伝わる郷土料理を確認】